診療局：内科《総合内科・感染症内科》

ースタッフ紹介ー

役　　職	スタッフ名
総合内科・感染症内科部長 兼臨床研修副センター長兼感染症センター長 兼院内感染対策室長兼産業医	倭　正也
膠原病内科部長 兼リウマチセンター長	入交　重雄
副医長兼院内感染対策室副室長	関　雅之
副医長	山本　雄大
非常勤医員	葛城　有希子
非常勤医員	水野　友貴

総合内科・感染症内科

ー概要ー

現在の医療は高度の専門化が進んでいる一方で、様々な病気を併せ持つ患者に対して「全人的医療」を行うことのできる医師が少なくなっている。そこで当院では2013年4月より総合内科・感染症内科を新たに立ち上げ、診断のついていない症状ではじめて当院を受診され、どの専門科を受診すればよいかわかりにくい患者に対して、専門分野を横断的に診療する幅広い総合診療を行っている。さらにその際に感染症および膠原病の診療を行う機会も多く、これも当科にて診療を行っている。

具体的には、一般内科疾患全般（内科救急疾患を含む）をはじめ原因不明の持続する発熱（不明熱）、関節痛などといった症状を持たれた患者の外来、入院診療を行っている。またその際に、高度な専門医療を要する場合には適切な各専門科に紹介させていただいている。さらに、当科以外の各専門科において入院治療を要する患者に対しても、専門科と良好なコミュニケーションを保ち、多角的に相互補完するバランスのとれたチーム医療を実践し、患者の全身管理のサポートを行っている。

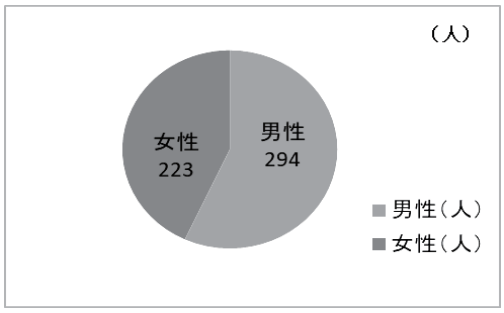
また、輸入感染症の診療も当科の重要な任務の1つである。当院は、厚生労働大臣指定の我が国で4か所の特定感染症指定医療機関の1つであり、西日本では唯一である。当科にて感染症センターに入院された患者の診療を行っている。特に、新型コロナウイルス感染症COVID-19の診断、診療を行っている。

2013年4月、りんくう総合医療センターと泉州救命救急センターがひとつの病院として統合した。救命救急センターとの相互連携を深め、救急医療を含む総合診療と高度な専門医療とが多角的に相互補完する、これからの地域医療を支える新たな診療体系の構築を目標に、総合診療の体制を発展させている。

ー実績ー

◆外来初診患者数（2022年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
男性	24	24	28	27	28	17	25	24	19	28	19	31	294
女性	14	10	31	34	16	15	18	16	23	20	14	12	223
合計	38	34	59	61	44	32	43	40	42	48	33	43	517



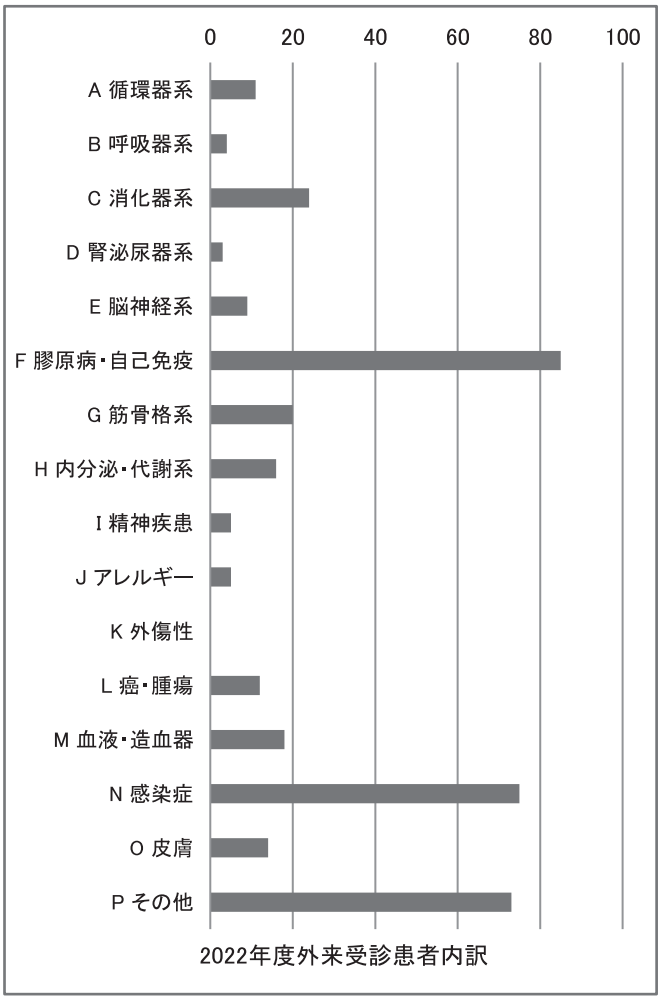
◆入院患者数（2022年度）

新入院患者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
17	19	17	10	22	14	7	9	15	11	7	14	162

延べ入院患者数

4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
375	315	384	398	505	530	513	331	502	799	454	420	5,526



A 循環器系	
高血圧症	2
心房中隔欠損	1
表在静脈血栓	1
下肢静脈血栓	1
大動脈弁狭窄症	1
不整脈	1
頻脈	1
心筋症	1
急性心筋梗塞	1
心臓サルコイドーシス	1
B 呼吸器系	
肺気腫	1
慢性閉塞性肺疾患	1
右肺門部 小リンパ節	1
急性咳嗽	1
C 消化器系	
逆流性食道炎	4
急性腸炎	1
肝機能障害	5
胃腸炎	4
脂肪肝	1
憩室炎	1
肝腫瘤	1
カンピロバクター腸炎	3
偽膜性大腸炎治療後	1
胃潰瘍	1
左内頸動脈瘤	1
食道裂孔ヘルニア	1
D 腎泌尿器系	
尿路感染症	2
ネフローゼ症候群	1
E 脳神経系	
頚動脈硬化症	1
小脳虫部結節	1
ラクナ梗塞	1
急性期脳梗塞	1
陳旧性脳梗塞	1
症候性てんかん	1
多発脳梗塞	1
可逆性脳血管攣縮症候群(RVCS)	1
脳梗塞	1
F 膠原病・自己免疫	
リウマチ性多発筋痛症	8
関節リウマチ	24
レイノー現象	5
多発性筋炎	1
RS3PE症候群	2
成人スチル病	2
混合性結合組織病	2
ベーチェット病	2
限局性皮膚硬化全身性強皮症	1
皮膚筋炎	2
全身性エリテマトーデス	9
無筋症性皮膚筋炎	1
繊維筋痛症	1
急性再発性関節炎	1
全身性強皮症	3
シェーグレン症候群	12
SAPHO・掌蹠膿疱症性骨関節炎	1
全身性強皮症	2
乾癬性関節炎	2
限局性皮膚硬化強皮症	1
抗リン脂質抗体症候群	2
尋常性乾癬	1
G 筋骨格系	
脊柱管狭窄症	1
頚椎椎間板ヘルニア	2
頚椎ヘルニア	1
関節炎	3
変形性脊椎症	1
変形性腰椎症	1
頸椎症	2
右足腫脹	1
手指関節炎	1
強直性脊椎炎	1
後縦靭帯骨化症	1
変形性膝関節症	1
変形性頸椎症	1
胸椎骨折	2
骨粗鬆症	1

H 内分泌・代謝系	
糖尿病	3
脂質異常症	2
甲状腺機能亢進症	2
橋本病	3
バセドウ病	1
甲状腺機能低下症	2
高尿酸血症	2
糖尿病性ｹﾄｱｼﾄﾞｰｼｽ(DKA)	1
I 精神疾患	
心因性ストレス	1
パーソナルティー障害	1
不安症	2
一過性意識消失	1
J アレルギー	
稲アレルギー	1
穀物アレルギー	1
アレルギー性鼻炎	3
L 癌・腫瘍	
胃癌	2
大腸腺腫	3
乳腺腫瘤	1
横行結腸癌	1
子宮体癌	1
降下性縦隔腫瘍	1
甲状腺低分化癌	1
甲状腺右葉腫瘤	1
左卵巣成熟嚢胞性奇形腫	1
M 血液・造血器	
下肢静脈瘤	1
多発性骨髄腫	1
M蛋白血症	1
特発性血小板減少性紫斑病	1
好酸球増多	4
好酸球性多発血管炎肉芽腫症	1
Plt減少	1
大球性貧血	1
鉄欠乏性貧血	7
N 感染症	
感冒・上気道炎	2
肺炎	16
伝染性単核球症	1
梅毒	2
梅毒凝陽性	3
蜂窩織炎	4
菌血症	1
肺結核	1
ウィルス性感染症	3
不明熱	5
肺陳旧性炎症	1
誤嚥性肺炎	2
HIV	2
HIV凝陽性	1
日本紅斑熱	1
結核性リンパ節炎	2
デング熱	3
口唇ヘルペス	2
口内炎	1
結核性胸腹膜炎	1
好酸球浮腫	1
化膿性脊椎炎	2
細菌性扁桃炎	3
新型コロナウイルス感染症	4
コロナ感染後	1
デング熱罹患後	1
胃炎	1
ウィルス感染後の二次性細菌性下気道感染症	1
胸膜肺炎	1
MRSE	1
MSSA	1
結核性骨髄炎	1
ﾗﾝﾌﾞﾙ鞭毛虫既往	1
菌血症	1
トキソプラズマIgM偽陽性	1

O 皮膚	
帯状疱疹	8
皮疹	3
重症薬疹	1
びらん	1
アトピー性皮膚炎	1
P その他	
マクロCPK血症	1
花粉症	4
結膜炎	1
失神	1
舌腫大	1
鼠径部腫瘤	1
更年期障害	1
左腋窩リンパ節炎	1
下肢・下腿浮腫	18
陰部潰瘍	1
扁桃炎	1
右肺下葉小結節	1
左鼠径部腫瘤	1
左下顎腫瘤	1
子宮筋腫	1
脱水症	2
好酸球性筋膜炎	1
両側鼠径部リンパ節腫大	1
筋軟骨炎	1
便秘	1
コロナワクチン接種後後遺症	3
リンパ腫脹	4
低Na血症	1
肺炎治療後	1
高K血症	1
低K血症	1
コロナ後遺症	7
反応性リンパ節炎	1
リンパ節腫大	1
再発性多発軟骨炎	1
急性中耳炎	1
針刺し	2
アルコール中毒	1
顔面浮腫	1
クウィンケ浮腫	1
口内炎(慢性、再発性)	2
眼瞼下垂	1
扁桃潰瘍(難治性)	1
低アルブミン血症	1

―来年度への抱負―

地域からご紹介などの診断困難症例、不明熱、重症感染症患者および新型コロナウイルス感染症COVID-19の治療にさらに尽力していきたい。また、他診療科とのさらなるコミュニケーションを図り、感染症診療においては今後も引き続き抗菌薬の適正使用に努めたい。

特に、新型コロナウイルス感染症COVID-19陰性症例を地域からご紹介いただいた中には、通常の細菌性肺炎のみならず、血液培養陽性の感染性心内膜炎症例、免疫疾患症例、さらには悪性リンパ腫症例などが数多くございました。これらの疾患の迅速な診断、適切な専門科への紹介、治療開始に繋げられるように引き続き努めていきたい。

また、新型コロナウイルス感染症COVID-19やその他の新興感染症などの新しい知見、当院での経験などについて、講演、学会発表、学術論文の作成など研究活動に一層力を入れていきたい。

特定感染症指定医療機関として、地域全体の各医療機関、厚生労働省、大阪府、泉佐野保健所をはじめとする府内の保健所、関西空港検疫所、および近隣の府県との連携体制をより強固に構築していき、次なる新興感染症への備えを確実に行なっていきたい。